

各構成員からいただいた主な意見について（集約結果）

令和 2 年度の豪雪等を踏まえた新潟市の除雪体制見直しについて（案）

1 除雪実施体制に関する評価と改善方針

- 雪の仮置き場について、雪の搬出入口の確保や仮置き期間中の管理をお願いしたい。
- 市民からも協力してもらい、担当路線での雪の仮置き場確保をお願いしたい。
- 排雪について、バックホウでは積込時間がかかり、ショベルローダーは積込場所に制約を受けるため、ロータリー除雪車の増台が有効と考える。
- 交差点部は除雪面積が大きく幅員が狭くなる傾向にあるように感じるので、除雪方法について検討願いたい。特に渋滞の原因となる右折車線の確保に努めてもらいたい。
- 「必ず運行する路線」の見直しについて、除雪が間に合わないという前提において、路線数を更に限定する見直しには賛成する。但し、見直し後の「必ず運行する路線」の除雪レベルについては、道路の外側線（サイドライン）が見えるまでの除排雪を希望する。
- 「異常降雪」との文言があるが、「想定降雪を超える事態」といった文言に変える必要があるのではないか。

2 除雪広報に関する評価と改善方針

①（新たな情報発信内容の追加）異常降雪時は、「災害が起きている」「外出を控える」というコンセンサスを得ることができるような広報を行う

- 異常降雪時の市民周知の取組みとして、大雪は災害であることを事前周知し、目安となる警報レベル等の指標設定について、ラジオやテレビ等のメディアを使い周知してはどうか。
- 市巡回車を利用し、ウェアブルカメラ活用で一般にもライブ映像配信を行ってはどうか。
- 異常降雪予報が出た段階で、マスコミ（テレビ、ラジオ）に早めの準備（食料品や灯油の購入、冬用タイヤへの交換）の呼びかけを依頼し、異常降雪時の外出を極力減らすよう促し、外出した時に自らに降りかかるリスクを周知してはどうか。
例：渋滞に巻き込まれる（最悪の場合吹き溜まり渋滞に一晚以上巻き込まれることも）、JR が運休した場合にバスや自家用車で出勤すると、平時よりも多い車両が狭い車線に集中して大渋滞が発生する、スリップ等により交通事故のリスクも高まる、など。
- ホームページ等における雪害に関する情報の入口が一カ所で、その次に除雪状況、道路交通状況、鉄道運行状況等の各情報を閲覧できるような情報提供の在り方があったら良いのではないかと。
- 数年に一度の大雪の際も、休校の判断は各学校に委ねられている。公共交通で登校すれば良いが、遅刻のリスクを回避するため、親・祖父母等の自家用車に頼ることにより更なる渋滞を増長させている。教育委員会の強い指示により休校や始業を遅らせる措置を積極的に行わせるべきではないかと。
- 「除雪は行政が当たり前に行うもの」という認識から「災害時は除雪が間に合わないため外出を控えて身を守る」と市民の意識を変えさせることが重要だと思う。その際の休校・休業要請について、災害レベルということであれば「お願い」というレベルではなく、ある程度強制力を持つことが望ましいのではないかと。

- 広報に関しては、想定を超える降雪が予測される場合は「除雪警報」等のわかりやすい指標を設け、市民や企業・組織に期待される行動についても同時に示してはどうか。平時の啓発についても動画を用い、YouTube や Twitter 等を活用する等の多様なメディアからの発信が重要だと考える。

②稼働状況の更なる見える化

- 情報公開により、通行できる道路が把握されやすいという利点がある反面、市民から更なる苦情・要望の増加が懸念される。（なぜ、自分たちのエリアに除雪が来ないのかなど）
- この情報を誰がどのように利用するのか根本を考えるべきではないか。例えば本日中に除雪が進み翌日は通行しやすくなると伝えるなど発信する際の姿勢が大切ではないか。除雪が遅れてご迷惑をおかけして申し訳ないという姿勢ではなく、除雪車の後ろは渋滞になる可能性が高いので回避してとか、除雪完了の路線を活用してという姿勢で伝え、自宅付近の除雪が遅々として来ないことへの要望の基にしないほうが良いのではないか。
- 稼働状況については、除雪の様子をカメラで見せる、「笑顔、普通の顔、困った顔のイラスト」で見せるなど、可視化方法についても検討が必要ではないか。

③「パンフレットの存在の周知」「より効果的且つ繰り返し発信する広報の実施」

- より効果的な情報発信の取組みとして、パンフレットのお願いをテレビ CM で行い、市民への周知、理解を深めてはどうか。
- 確実に認識してもらいたい人に伝達する方法を工夫すべきではないか。
例えば、社用車や自家用車ユーザーには GS での給油時にパンフレットを渡す。11 月に入ったら早めのタイヤ交換を促すとともに、異常降雪時の運転自粛を呼びかけるリーフレットを配布するなど。また、併せて排雪作業実施基準や排雪作業を実施する路線を周知し、同時に HP 上にも掲載してはどうか。
一般市民向けには、事前にタイムシフトできるものは調整を促す。例えば食料品、灯油の購入、通院予定の前倒しなど、異常降雪が予想される時だけ特別に呼びかける事例を示すと理解が高まるのではないか。
- 市長からの呼びかけなどで非常事態であることの周知、外出の自粛、自家用車の使用制限などマスコミ（テレビ、ラジオなど）を通じて広報いただくなどの取組みを積極的に進めてほしい。
- 平時における啓発については、2①に既述したように動画を用い、YouTube や Twitter 等の多様なメディアからの発信が重要ではないか。また、人が集まる場所、公共機関等の待合室、ショッピングセンター等にスマホ等でもアクセス可能な QR コード付きのポスターを掲示することはどうか。また、雪の季節前に周知の集中キャンペーンを行ってはどうか。

令和2年度の豪雪等を踏まえた新潟市における今後の取組み

1 異常降雪時の効率的な除排雪を目指すための取組み

- 基準に沿った除排雪の取組みについて、地域住民に対しても公表を行ったほうが良いのではないかと。
- 「異常降雪」ではなく「除雪のための想定を超えた降雪」があった場合とする。その状況を警報レベルで表す。警報レベルによっては、市民サービス（例えば、ゴミ収集）公共交通機関（バス等）の計画的停止についても視野に入れる。市民や企業・組織に期待される協力も整理する。これらについて、市の責任者からの直接広報を含む、多様な形態の広報について務めてはどうか。

2 異常降雪時の市民理解・市民協力をいただく除雪広報の取組み

- 除雪状況の見える化については、稼働状況の更なる見える化（2②）と同様のことが懸念される。
- 新潟市の除雪計画の中で、自宅のある自治会付近の車道がどの区分なのか？基準、優先順位は？何処を除雪してもらえるのか？（市道と私道の区分）など具体的な地区の除雪路線図などがあると市民に協力を求めやすいのではないかと。
- 不要不急は人それぞれによって異なるもの。事前にタイムシフトできるものは調整することを促してはどうか。例えば、食料品、灯油の購入、通院予定の前倒しなど、異常降雪が予想される時だけ特別に呼びかける事例を示すと理解が高まるのではないかと。
- 休校やテレワークの推進は良いことと思う。水害同様に災害のレベルをあらかじめ決め、例えば最高の「レベル4」となった場合は、各連絡を行わずとも休校とすることや、エッセンシャルワーカー以外は休業、時短、時差出勤を決めておくなど、将来目標としてあって良いのではないかと。
- 市民に外出を控えさせる警報レベルについては、「積雪〇〇cm」という分かりにくい指標ではなく、「〇〇警報が発出された時」など、全ての人に分かりやすいものであるべきではないかと。その意味では、新たに新潟市で独自の基準（それが発出されたら、学校は休校、企業や商店は休業）を作ってもよいのではないかと。

今後の進め方（案）について

- 更なる取組みが必要だと考える。小雪の年についても検証会議を定期的で開催し、継続的な広報の実施や関係機関の考え方の共有を不断なく実施していくべきではないかと。

その他のご意見

- 現在、除雪出動に当たり、管理システム内の事前予報を参考にしているが、異常降雪時ではほとんどあてにならず、自社での計画策定に混乱が生じやすい。災害対応についても、事前に計画を立て、出動時に明確な指示が出せるよう、市と業界間で事前に合意作業計画を作成してもらいたい。

- 「異常降雪時」には夜間のみならず昼間の除排雪も必要になる。昼間は一般車両の台数が増え道路を供用しながらの除排雪では時間がかかるため、関係機関と調整して道路閉鎖を行い、短期集中的に実施することで効率的な除排雪になると考える。
- 災害時の対応は市民の理解と協力を得なければ物理的に計画通りの除排雪ができないため市民の不満が高まる。自分の命は自分で守るという意識で、天気予報に敏感になってほしいと呼び掛け、会社や学校にも協力を求めることで、一つでも不幸を減らすことに繋がればよいと考える。
- 必要に応じてワーキング等を設けて、機動的に懸案事項の解決案の作成を行ってはどうか。

以上